

令和3年度(2021年度)八王子市立中学校・義務教育学校(後期課程)使用教科用図書調査研究報告書(選定資料作成委員会)

種目 社会(地理) (1/1枚目)

調査の観点	発行者名 東京書籍	教育出版	帝国書院	日本文教出版
<p>1 内容 (1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 (2)生徒の発達段階に対して配慮しているか。</p>	<p>(1)思考力・判断力・表現力等育成の配慮 ・単元を貫く探求課題を設定し、節末の「まとめの活動」において、思考力・判断力・表現力・議論する力を養えるようにしている。 ・北方領土、竹島、尖閣諸島については、自然と資源など地誌的な内容が充実している。 ・様々な自然災害に対する防災や減災に向けた取り組みを取り上げている。 (2)生徒の発達段階 ・章の始めに「小学校の社会で習ったことば」を設け、小学校との接続を意識させている。</p>	<p>(1)思考力・判断力・表現力等育成の配慮 ・単元の最後に「学習のまとめと表現」を設け、基礎・基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成が図られるように工夫している。 ・日本の領土問題では、年表資料があり、歴史的な内容が充実している。 ・自然災害と防災に関する現状と課題、今後の在り方について理解と考察が深まる工夫が見られる。 (2)生徒の発達段階 ・興味関心を高め、学びに向かう力を育成するための「地理の窓」が充実している。</p>	<p>(1)思考力・判断力・表現力等育成の配慮 ・各ページの見開きの最後に、「確認しよう」「説明しよう」を設け、見通し、振り返り活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を養えるようにしている。 ・日本の領土問題では、変遷の地図があり、歴史的な内容が充実している。 ・本文やコラムなどで防災について9つのテーマを設け生徒が主体的に学習に取り組むようにしている。 (2)生徒の発達段階 ・写真資料や諸外国と日本を比較した資料が多く、生徒の関心・意欲を高める工夫がある。</p>	<p>(1)思考力・判断力・表現力等育成の配慮 ・巻頭で5つの地理的な見方・考え方についての詳細な説明があり、「スキルアップ」のコーナーでは、資料活用能力を高める工夫が見られる。 ・日本の領土問題では、変遷の地図があり、歴史的な内容が充実している。 ・災害、防災について系統立てて学習できるようにし、生徒が生命や安全確保に取り組むようにしている。 (2)生徒の発達段階 ・各ページの見開きの学習課題を解決するための、見方・考え方を明確に示している。</p>
<p>2 構成上の工夫 (1)重点調査項目 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 (2)構成・分量等、生徒の発達段階を十分に配慮しているか。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・話し合いをする「みんなでチャレンジ」というコーナーを豊富に設け、「主体的・対話的で深い学び」の活動が効果的に実践できるよう配慮している。 (2)各領域の構成・分量 ・「世界と日本の姿」から入り、「世界の諸地域」、「日本の諸地域」(最初に「地域調査の手法」)、「地域のあり方」の順で学習する。 ・分量は適切である。総ページ数295(内、目次、統計・資料、解説・さくいん等19ページ) ・「導入の活動」で小学校の学習を振り返り、「探求課題」を立て、「学習課題」を解決しながら進み、「まとめの活動」という流れで、系統的、発展的な構成になっている。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・章・節末の「学習のまとめと表現」の意見交換で、「主体的・対話的で深い学び」の活動を実践できるよう配慮している。 (2)各領域の構成・分量 ・「世界と日本の地域構成」から入り、「世界の諸地域」、「日本の諸地域」(最初に「地域調査の手法」)、「地域のあり方」の順で学習する。 ・分量は適切である。総ページ数295(内、もくじ、用語解説、統計資料、さくいん等16ページ) ・節ごとに、「学習テーマ(視点)」が提示され、「学習課題」を解決しながら進み、章・節末の「学習のまとめと表現」で振り返るという流れで、系統的、発展的な構成になっている。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・節末の「節の学習を振り返ろう」で、「持続可能な社会に向けて考えよう」という話し合いのコーナーがあり、「主体的・対話的で深い学び」の活動を実践できるよう配慮している。 (2)各領域の構成・分量 ・「世界と日本の姿」から入り、「世界の諸地域」、「日本の諸地域」(最初に「地域調査の手法」)、「地域のあり方」の順で学習する。 ・分量は適切である。総ページ数300(内、さくいん等6ページ) ・章・節の最初に「章(節)の問い」を提示し、「学習課題」を解決しながら、「章(節)の学習を振り返ろう」という流れで、系統的、発展的な構成になっている。</p>	<p>(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 ・「地理にチャレンジ」や「アクティビティ」で、話し合いのコーナーが設けられており、「主体的・対話的で深い学び」活動を実践できるように配慮している。 (2)各領域の構成・分量 ・「世界と日本の地域構成」から入り、「世界の諸地域」、「日本の諸地域」(最初に「地域調査の手法」)、「地域のあり方」の順で学習する。 ・分量は適切である。総ページ数287(内、統計資料、用語解説、さくいん等13ページ) ・「学習課題」を解決しながら進み、節のテーマを追求する。そして、章・節末の「まとめ」という流れで、系統的、発展的な構成になっている。</p>
<p>3 情報活用能力の育成に関する配慮をしているか。 (1)生徒の情報活用能力を育む構成となっているか。 (2)生徒一人一人がコンピュータを活用できる工夫がされているか。</p>	<p>(1)論理的思考の育成 ・情報活用する技能を磨くために、「スキル・アップ」というコーナーを32項目設定している。 (2)コンピューター活用の工夫 ・地域調査の手法では、「デジタル地図の使い方」が明記され、活用方法を記している。 ・巻頭には、QRコードが掲載され、「Dマークコンテンツ」では、生徒がつまずきやすい学習内容の理解を助けるシミュレーションや動画を用意している。</p>	<p>(1)論理的思考の育成 ・インターネット等で収集した情報をレポートなどにまとめる学習課題を明記している。また、地図やグラフの扱い方を学習する「地理の技」というコーナーを8項目設定している。 (2)コンピューター活用の工夫 ・「地域調査の方法を学ぼう」では、インターネットを活用してテーマと仮説を検証することを明記している。 ・各単元の始まりに、学習に役立つ情報が載っているウェブサイトのQRコードを分かりやすく掲載している。</p>	<p>(1)論理的思考の育成 ・教科書に掲載されている情報活用する技能を磨くための「技能をみがく」というコーナーを23項目設定している。 (1)情報教育の育成 ・「日本の商業・サービス業」では、情報化が商業に与える影響を記述している。 (2)コンピューター活用の工夫 ・各単元の始まりや詳しく解説が必要な資料に、QRコードをこまめに掲載している。</p>	<p>(1)論理的思考の育成 ・地域調査の手法では、インターネットによる情報活用の仕方、その資料のまとめ方を明記している。また、地理の技能を高める「スキルUP」というコーナーを6種類31か所設定している。 (2)コンピューター活用の工夫 ・「デジタルマーク」をつくり、公開している写真・動画や資料などに生徒がアクセスできるようにしている。 ・「デジタル地図の使い方」が明記され、活用方法を記している。</p>
<p>4 使用上の便宜 (1)教員にとって、使いやすくなるための配慮がされているか。 (2)生徒にとって、読みやすい表現であるか。 (3)地域性に対して配慮しているか。</p>	<p>(1)教員にとって、使いやすさ ・各ページに資料の見方・考え方、読み取り方が示されている。 ・単元末に、様々な思考ツールを用いたまとめ方の手順を分かりやすく示している。 (2)生徒にとって、読みやすさ ・学習課題が大きく読みやすい書体で表している。 ・写真資料が大きく美しい。 (3)地域性 ・単元の初めに日本の各地方の面積、人口、産業別生産額について比較できるグラフがあり、自分が住んでいる地域の特色を知ることができる。</p>	<p>(1)教員にとって、使いやすさ ・コラムが多く、発展的な学習ができるよう配慮している。 ・単元末に思考力・判断力・表現力を身に付けさせるために意見交換のテーマを掲載している。 (2)生徒にとって、読みやすさ ・単元ごとの学習テーマが大きな字で読みやすく表記している。 ・地図資料の文字表記が鮮明である。 (3)地域性 ・地域の課題を調べる学習で、八王子市を含めた多摩ニュータウンをテーマにした内容を取り上げている。</p>	<p>(1)教員にとって、使いやすさ ・本文の説明内容が充実しており、用語解説を同じページに示している。 ・資料活用技能を磨くページが多く掲載され、生徒が段階を踏んで技能を身に付けられるよう配慮している。 (2)生徒にとって、読みやすさ ・漢字表記のものほとんどにふりがなを表示している。 ・興味・関心を高める写真資料が豊富である。 (3)地域性 ・世界や日本の諸地域の学習では、各単元末に「私たちの関わり」の項目で自分が住んでいる地域との関りについて考える課題を示している。</p>	<p>(1)教員にとって、使いやすさ ・題材ごとに学習課題の下に解決のための見方・考え方を示している。 ・小学校の学習内容や歴史的分野とのつながりが示され、関連付けて指導ができる構成となっている。 (2)生徒にとって、読みやすさ ・見開き2ページの文章、資料、コラムの配置が同じで、本文の字も大きく、行間も十分にとられていて読みやすくなっている。 (3)地域性 各地方の特色ある自然環境や産業の写真、資料を多く掲載し、自分の地域との比較がしやすくなっている。</p>
<p>5 その他</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて ・本文や「もっと地理」において、生活の変化に関連付けてSNSを取り上げている。(p.96、174～175) (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・持続可能な社会の形成に主体的に参画する力の育成のための課題を設定している。 ・導入の活動でSDGsを取り上げ、現代の課題を解決するための内容になっている。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・本文や「もっと地理」において、東京2020オリンピック・パラリンピックについて、東京の再開発に関連付けて触れている。(p.236～237、244) (4)地域の在り方について SDGsゴール11の視点から、宮崎市を例に住み続けるまちづくりの魅力を取り上げている。(p.270～281)</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて ・情報通信技術(ICT)の発達による生活の変化を取り上げている。(p.170～171) (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・各州や各地方の事例をもとに、持続可能な社会を考えることができるテーマを選出して展開している。 ・「地球的課題とSDGs」を掲載して、各州ごとに取り上げる地球的課題との関連を示すことで、興味関心を高められるようにしている。(p.76～77、112～113、182～183、212～213) (3)オリンピック・パラリンピックについて ・「知識の窓」において東京2020オリンピック・パラリンピックについて、臨海部の再開発関連付けて触れている。(p.129、235) (4)地域の在り方について ・多摩ニュータウンの高齢化問題を取り上げ、持続可能性の視点から将来の地域像を考えるようにしている。(p.274～281)</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて ・情報が商業に与える影響や情報が集まる地域の産業について記述している。(163、244～245) (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・本文やコラム、特設ページを通して、持続可能な社会を目指す態度を養えるようにしている。(p.186、202、218、234、252、268、284) ・SDGsに該当する事例や取り組みを紹介したり、コラムや特設ページにはSDGsマークを付けたりしている。(p.69、91、123、181、218、225、279) (3)オリンピック・パラリンピックについて ・東京2020オリンピックについては、持続可能な社会に関連付けて取り上げている。(p.157) (4)地域の在り方について ・修学旅行で訪れる京都市を通して、持続可能な社会を目指して構想できるようにしている。(p.285～295)</p>	<p>(1)SNSや情報モラルについて ・通信網の発達と、生活の変化として、SNSを取り上げている。(p.160～161) (2)SDGs(持続可能な開発目標)について ・持続可能な社会を作っていく上で必要な地球的課題・社会的課題を、追究する内容になっている。(p.43、163) ・「日本の諸地域」の章末でSDGsの目標を示し、SDGsの視点から振り返られるようにしている。 (3)オリンピック・パラリンピックについて ・学習の導入や「自由研究」において、東京2020オリンピック・パラリンピックについて、東京の変化に関連付けて考えられるようにしている。(p.220、232) (4)地域の在り方について ・京都市を取り上げ、様々な立場から、まちづくり会議でプランを立てさせようとしている。(p.263～273)</p>